



こうべ森の学校だより

No.77

2017年7・8月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

こうべ森の学校 アンケート結果について (報告)

平成29年5～7月の間、こうべ森の学校においてスタッフ及び会員に対して、アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。下記のとおり、結果を報告するとともに、今後の活動に役立てさせていただきます。

回 答 者	スタッフ 会員			一般 会員			
	19名 (男15・女4)			17名 (男15・女1)			
年 齢	50代-6名、60代-4名、70代-9名			50代-2名、60代-6名、70代-9名			
活 動 の 参 加 頻 度	ほぼ毎回	1名			12名		
	8割程度	6名			4名		
	半分程度	7名			1名		
	年に数回	1名			-		
	例会のみ	4名			-		
参 加 の ぎ っ け	森学だより	-			2名		
	パンフレット	-			3名		
	ホームページ	1名			1名		
	知人・友人に誘われて	4名			3名		
	活動現場を見て	3名			2名		
	広報誌こうべを見て	5名			2名		
住 所	神戸市内	15名			15名		
	神戸市外	4名(西宮市、大阪市)			2名(明石市、三木市)		
	山荘までの 所要時間	20分以内			5名		
	30～45分			3名			
	50～70分			7名			
	90分以上			4名			
満 足 度	項 目	行 事	活 動	ス タ ッ フ	行 事	活 動	ス タ ッ フ
	とても満足	7名	8名	6名	3名	8名	9名
	やや満足	8名	9名	7名	11名	8名	8名
	普 通	3名	2名	6名	3名	1名	-
	やや不満	1名	-	-	-	-	-
不 満	-	-	-	-	-	-	
意 見 ・ 要 望 等	和気あいあいとした雰囲気の中で、気持ちよく活動できている 他団体との交流・外部発信をして若いメンバーの増につなげたい 自然の中での作業・勉強会を通じ、充実した活動をしたい			毎回課しんで活動でき、地元公園の手入れにも役立っている 参加者増につながるよう、近隣施設との連携をしてはどうか 経費・手間の削減に、案内葉書を止め、HPやe-mailで良いのでは			



7月8日 例会の集合写真

九州北部豪雨の災害支援活動

木下 英吉

7月5日に発生した豪雨災害で被害の大きかった大分県日田市・福岡県朝倉市・東峰村に、12日、ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社協のボランティア活動支援部門）や県関係部署の幹部数名が、日帰りで先遣調査を実施。①大分県日田市大鶴地区（市北部の山間部）

－山腹崩壊、川の氾濫で家屋への土砂流入被害甚大、



大鶴地区の氾濫箇所

市中心部から遠距離のため災害ボランティアのサテライトセンター（被害の大きい地域に密着した支援を行うために設置のボランティアセンターの出先）を

15日（土）午前に設営予定、日田市社協から同センターの開設・運営の支援要請があった。②福岡県朝倉市杷木地区、比良松地区－筑後川流入河川が氾濫、流木や土砂で平坦地の広範囲の家屋・田畑が被害、特に杷木地区は被害甚大で自衛隊が救援活動中、ボランティアの入れる段階に至っていない。③福岡県東峰村宝珠山地区－駅や市街に流木・土砂が流入し被害が甚大、道路途絶箇所多数有り。

この結果を踏まえ、今回の活動地を大分県日田市大鶴地区・山田地区に決定。災害救援ボランティア活動支援関係団体協議会（以下：協議会。コープこうべ・NPO法人・大学コンソーシアムひょうご神戸・神戸市社協・ボランティアプラザ）・防災士・災害ボランティア熟練者等20名で、向かいました。



土砂が田を埋め尽くす

受付用機を設営・駐車場の確保、受付用文具や活動用資材（一輪車・スコップ・十能・鍬・バール・バケツ・テミ等）を並べ、役割分担を決めてボランティアの受入れに備えます。我々10名は、発災直後から支援を続けているNPOと協働で、山田地区自治会長の案内の下、二手に分かれお年寄り世帯に入りました。私達5名は、80代女性宅で、裏山から崩れてきた土砂を取除く作業です。杉の枝と土砂が混ざり、ツルハシで枝を取除きながら、土砂を搬出。搬出路は一輪車がやっと通れる幅な

○ 7月15日（土）大鶴地区・山田地区

協議会メンバー10名を中心に、大鶴サテライトを協働で立上げです。小学校

のグラウンドに、テント・

ので3台で交代しながらも、午前中には玄関先に積上げて（後日、行政が回収）、終えることができました。

午後、別の83歳ご夫婦（地元同級生で、生まれて初めての経験との）宅で、2日目の床下からの泥出し作業です。8畳2間は床材を除き、作業を始めたところ。根太（ねだ、床材を支えている50mm程の横木）が40cm程の間隔で渡っていて、これをまたぎながら2人一組で鍬・スコップで土嚢袋に詰め・屋外に運び出し、8畳一間を終えました。

○ 7月16日（日）大鶴地区・山田地区

今日もサテライトの運営と、私達は昨日のお家での続きです。別の8畳部屋からの同様の作業と、6畳2間はフローリングで、床材はそのままにしてほしいとのことで、2・3人で8畳部屋側から床下に潜り込み、泥かき・搬出作業です。同じ作業を続けると息苦しい感じなので、交代しながら完了できました。早めに終わったので、外回りを清掃して、部屋のガラス戸や障子50cm高の汚れ箇所も清掃？と尋ねると、部屋の中は「罹災証明申請時の証明に必要かもしれないから!？」とのことで、手を付けず。「これで、なんとか自分達で片

付けられます」とお礼を述べられ、暑い折ご自愛されるよう伝え、後にしました。

サテライトに帰ると、活動を終えた他のボランティアが続々と戻り、報告と資器材返却のピークで、そちらの応援に加わりました。そうしていると「オオー!!木下さんや」と声を掛けられ、今年3月熊本県益城町で共に活動したNPOの10名が、3日間限りで駆け付けていました。互いの労を労い、安全・再会を願いました。この日、当サテライトだけで300名程のボランティアが入ったとのことです。

<今回の活動を終えて>

天候が不安定で高温が続く中、ニーズの掘起こしや、田植えが終わったばかりの水田や野菜等の被害状況もこれから出てくるなかで、早期復旧を願うとともに、機会を見つけ再訪をと思いました。

天候が不安定で高温が続く中、ニーズの掘起こしや、田植えが終わったばかりの水田や野菜等の被害状況もこれから出てくるなかで、早期復旧を願うとともに、機会を見つけ再訪をと思いました。

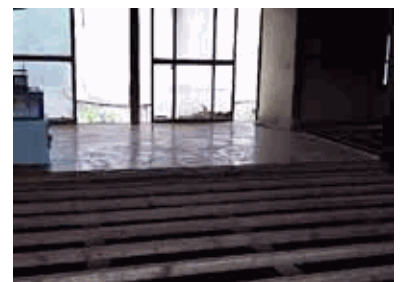
天候が不安定で高温が続く中、ニーズの掘起こしや、田植えが終わったばかりの水田や野菜等の被害状況もこれから出てくるなかで、早期復旧を願うとともに、機会を見つけ再訪をと思いました。

<今回の活動を終えて>

天候が不安定で高温が続く中、ニーズの掘起こしや、田植えが終わったばかりの水田や野菜等の被害状況もこれから出てくるなかで、早期復旧を願うとともに、機会を見つけ再訪をと思いました。



床下の泥を掻き出し



ガラス戸に堆積跡が

福岡県東峰村災害ボランティア活動

齊藤 豪

7月14日夜から17日まで連休を利用して、こうべ森の学校スタッフ西村武史さん及び大阪府山岳連盟の有志とともに豪雨災害で多大な被害を受けた福岡県東峰村へ行ってまいりました。社会福祉協議会のボランティアセンターが13日に開設され、幸いにもメンバーの方が東峰村出身であったため、滞在中ご実家にお世話になることができました。



泥の除去作業

14日夜に宝塚を出発し、夜通し高速を走り15日午前8時に東峰村小石原ボランティアセンターに到着しました。小

石原は焼き物で有名な場所で、多くの窯元があります。村の中心を流れる大肥川は蜚が飛び交う清流です。そんなのどかな地区が、7月5日の豪雨で山が崩壊し、土石流となって家屋を押しつぶし、橋や道路を破壊し一変しました。

私たちは被害が大きかった鼓地区へ派遣されました。訪問したのは川沿いのお宅で、家の前に土砂が堆積して車の出入りができない状態でした。土嚢袋に土砂を詰めて集積するという作業を人海戦術で行いました。暑い中での作業でしたが、何とかその日のうちに片づけることができました。



こうべ森の学校にお世話になって、かれこれ一年になろうかとしています。私のことを知っていただきたくて、自己紹介をさせていただきます。

昭和50年、私は主婦の再就職をと思い、当時あちこちで林立し始めたゴルフ場に就職することができ、以来40年近くキャディを務め、家計のために頑張ってまいりました。ですが、寄る年波にはついに老人性難聴という壁が立ちはだかり、長くお客様商売を続けることが難しくなりました。

趣味も特技もない私が、さて、これからの長い老後をいかに充実させて生きていくか、深刻な問題でした。

元来、じっとしているのが苦手な私は、手始めにしあわせの村にある“シルバーカレッジ”に入学することを決め、「再び学んで他のために」という建学の精神に身を持って理解し、今後の生き方の指針となる精神を

地元の消防団の方には水や塩あめ、冷たいタオルを届けていただきました。とてもありがたかったです。帰りに隣接の嘉麻市にあるラドン温泉に入れていただきました。疲れも吹き飛び、すっかりリフレッシュすることができました。



床下の消毒作業

16日は東峰村宝珠山サテライトに移動して活動しました。東峰村は、

もともと小石原村

と宝珠山村が平成17年3月28日に合併して誕生した村です。宝珠山地区は筑豊炭鉱で使用する材木を出荷する、林業で栄えたとのことでした。

16日、17日連続で原地区の床下浸水したお宅を訪問しました。2日間で4部屋の家具の移動、畳上げ、床板外し、泥かき、消石灰散布による消毒まで行うことができました。日中は35度に達する猛暑日でしたが、冷たいお茶や自家製のタカナ漬をいただくなど、むしろ気を使っていたいただき、無事乗り切ることができました。

今回訪問した福岡県東峰村、朝倉市、大分県日田市とは隣接しており、いずれも大きな被害を受けております。

個人宅の片づけはボランティアが頼りです。まだまだ多くの人手を必要としておりますので、皆様のご支援を戴ければと思います。

楽しいボランティアのお勧め

スタッフ 宮島 久美子

享受したのでした。

それからは人と人との絆を頼りに、あちこちのボランティアに精を出すことになり、“藍那の里公園”・“神出自然教育園”・“盲導犬協会”など、手に余るほどのスケジュールに振り回されています。こうべ森の学校は活動日も多く、毎回参加はできておりませんが、お仲間の雰囲気にも慣れてきて、皆様が何くれと無く声をかけてくださるので、非常に居心地の良い思いをさせていただいております。

山の奥深く、うっそうと茂るハイキングロードの手入れ、明るくなった様子に、ハイカーの方々から感謝の声も身近に掛けていただき、とてもやりがいを感じます。だんだん歳をとって、皆さんの足手まといになるやもしれませんが、今のところは必死でくらいついて、手伝っているのが正直な気持ちです。

どうぞこれからも、良き仲間・良い関係を維持して、長く付き合ってください。

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
6月18日(日)	58名	谷本さん	12名	16名	13名	6名
7月8日(土)	51名	西村さん	18名	14名	9名	5名

お知らせ・掲示板

◆バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス 25 系統 (三宮～森林植物園) をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸 1 階三宮バスターミナル M4 停留所、9 時 20 分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は 4 月～11 月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス 61 系統 (神戸駅南口～鈴蘭台) は通年運行しております。神戸駅南口バス停 9 時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩 25 分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成 26 年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

◆こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回の開催予定日は 9 月 24 日 (日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

◆摩耶の森クラブ

次回の開催予定日は 9 月 23 日 (土)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

■東お多福山・草原保全再生研究会

7 月 19 日 (水) 手工具を収納するための工具箱があればという要望が以前からありました。この度環境省の許可が得られたため、設置することができました。

この日の作業は東お多福山の植生調査と芦屋市側南斜面の全面刈りに向けて、ネザサの処分場所を確保することでした。日差しはきつかったですが、山の上は若干気温も低く、時折吹く風が爽やかでした。

次回の活動は 10 月 4 日 (水) の予定です。



少しずつですが、成果が出てきています

編集後記

私は月例会とウィークデーの活動に参加しています。

「その目的は？」と聞かれると、「六甲山 100 年の森を今後へ」と大上段に構えているわけではなく、ただ「森の手入れ作業が楽しいから」と答えるでしょう。

ツルが絡んだ倒木や、ササや樹木が偏って密生するうす暗い森の一面を定め、「よし、今日はこの周辺をスッキリさせよう！」と庭師の気持ちになり、後は無心で手足を動かすだけです。

◆ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は 500 円の負担で補償期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 9 月 9 日 (土)・10 月 15 日 (日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日でも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

枯れた倒木や伐採した樹木の幹は一定の長さに揃えて土留めを造り、枝葉は出来る限り細かくして集積します。

その結果、手を入れた周辺が明るく旅館の庭のようになった時はとてもハッピーな気持ちになるのです。

私たちの活動場所は、広大な六甲山から見れば「九牛の一毛」でしかなく、しかも数年経てばまた元の姿に戻るでしょう。しかし、活動の結果、ハイカーが爽やかな気分で散策を楽しんでくれたらそれで良いと思っています。

(林)